

防音・音響に特化し「快適な音環境づくり」を手掛ける クリニック、教育施設、オフィスまで幅広いシーンで実績 4,000 件以上 コロナ禍を経て人々の音ストレスへの意識も高まり、売上は 10 億円に

防音・音響に特化した設計・施工を行い、「快適な音環境づくり」を提案する環境スペース（本社：東京都渋谷区、代表：嶺島伸治）は、プロ仕様のスタジオや大規模な音楽ホールから、手術室やクリニックなどの医療機関、教育施設、オフィス、騒音問題に悩む工場まで、環境にあわせた「快適な音環境づくり」の提案・課題解決に取り組んでおり、その施工実績は 4,000 件以上にも上ります。日本では音環境というと、騒音・防音の話題が中心となりがちですが、快適な音環境づくりに求められるのはそれだけではありません。当社では、国内でも先駆けて音響の世界基準の工業規格 DIN18041 に基づいた最適な音環境を提案しています。コロナ禍を経て、人々の生活環境における音ストレスへの意識の高まりもあり、昨年度は売上 10 億円を達成、今年度は 14 億円を超える見込みです。



音環境を体験していただける音響防音スタジオ「EBISUTA」

特別な施設だけでなく、一般的な生活環境にこそ「快適な音環境」が必要とされる

聴覚は、五感の中で人間の身体や感性にまで影響を与える重要な要素であり、快適な音環境をつくるためには「防音」だけでなく、音の波長をコントロールする「音のデザイン」が必要です。残念ながら日本では、まだ音環境についての意識が低く、「防音」「騒音対策」といったことばかりが話題の中心になっています。

一部の先進国では、オフィスや学校などの教育施設といった、一般的な生活空間でも推奨値が示されるなど良質な音環境が追求されています。特にドイツでは、小規模あるいは中規模の一般的な部屋の「音響品質 - 設計における必須規定と推奨事項」といった規定（DIN-18041）があります。これは音楽やスピーチの為の高品質を要する録音スタジオや、特定の要件を持つ部屋への対応するものではなく、ただの一般的な部屋に対しての標準基準です。例えば幼稚園の教室や病院のホールや部屋、診察室などのように、一見音響設計は必要ないと思われるような空間に対して、基準が設けられているのです。こういった一般的な生活環境こそ、音環境の整備が必要とされています。

実際、私たちは、他人の話し声や、家具や生活用品によって生まれる音、さまざまな機械音といった多くのノイズに囲まれた中で生活しています。そこで当社では、生活環境の中で高品質な音声コミュニケーションを実現する「もうひとつ上の音空間」を提供し、音ストレスの低減、快適な音環境の実現を目指します。

医療施設や教育施設など多くのシーンで最適な音環境を提案、施工実績は 4,000 件以上

当社で施工しているのは、スタジオやコンサートホール、個人宅のオーディオルーム、ピアノ室といった特殊な環境だけではありません。医師や看護師たちの正確なコミュニケーションが求められる手術室、患者のプライバシーに配慮したクリニックといった医療施設、ウェブ会議を行うオフィスや会議室、オフィス街やマンション内の保育園、さまざまな用途の施設において、騒音対策・音響設計を行っています。

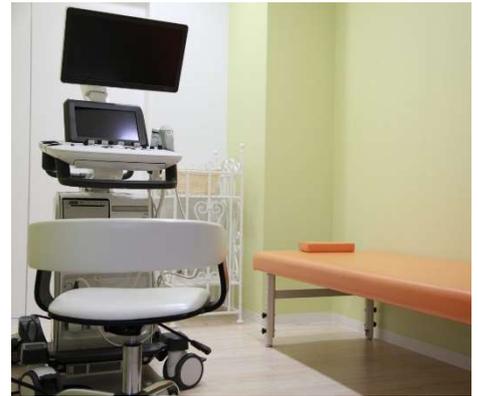
また、コロナ禍での大きな変化として、ウェブ会議を行うことでオフィスや室内の音環境について意識する人が多くなりました。それまでの対面式では気づけなかった、「声が伝わりづらい」「聞き取りにくい」といった違和感から、音環境について意識する方が増えたようです。例えば、ブースで仕切られている部屋でオンライン会議などをしてしていると、同じ場所において対面で会話しているときには気がつかなかったような、他所のスペースの音、まわりの雑音が気になるようになる、といったこともあります。



音楽ホール



保育園



クリニック

数値や専門知識だけではなく、見えない「音環境」について伝えるコミュニケーション力を養う

これまであまり「音環境」について意識されなかったこともあり、騒音対策を除き、建築において「音環境」はあまり重視されてきませんでした。そのため、音に関して正しい測定、最適な音環境の設計・提案までを行える人材も多くはありません。国内では、生活環境において基準となる数値もないため、防音の知識はあっても、最適な設計や施工までを実現できる会社は少なく、ハウスメーカーやゼネコンも我々のような専門業者に依頼します。

最適な音環境を実現するため、まずは部屋の目的や用途について詳細なヒアリングを行い、広さや形状を配慮し音量測定を行います。その結果をもとに、音源からの反射や残響時間などを決定、内装材や反射板や吸音パネル、消音レゾネーターなどを配置して理想的な音響設計を導き出します。

当社では、測定専門の担当者が在籍している他、音に関する実験器具・測定的樹々を備え、JIS 規格に適合した調査・測定を行い、計量証明事業所としての認可を得ています。客観的な立場で正確性のある検証を踏まえて、感覚値ではなく、遮音性能を数値化することで科学的根拠に基づいた快適な音環境づくりを提案しています。月に一度、大学教授を招いた勉強会を開催し、更に専門性を高めるべく研鑽しています。

また、最適な音環境を提案するためには、正確な知識はもちろん、目に見えない「音環境」を一般の方に正しく伝えるコミュニケーション力も必要とされます。エビデンスに基づいたサポート結果をわかりやすくお伝えして、納得していただく必要があります。専門知識を高めるだけでなく、提案力を身に着けるための研修も行っています。



コロナ禍を経て「音ストレス」に気づく方が増加、売上は 10 億円を超える

コロナ禍は、人々の生活環境における音への意識に変化をもたらしました。それまで気がつかなかった騒音や生活音、ノイズに気がついた方も多く、マンションでの騒音トラブルなども多数寄せられました。同じ空間で意思疎通をするコミュニケーションとは異なり、違う環境の相手と PC 越しにコミュニケーションをとるオンライン会議が浸透し、自身取り囲む環境の「音」に意識を向けた方も多いようです。そのような背景もあり、コロナ禍ではスタジオなどの大型物件が止まるなど一時的に売り上げを落としたものの、**その後は順調に売り上げを伸ばし、昨年度は売上 10 億円を突破、今年度は 14 億円を超える見込です。**

2019 年には、本格的な音響防音スタジオ「EBISUTA」をオープン、言葉だけでは伝えられない防音・音響の性能を体験していただくショールームとしても活用、音楽イベントや演奏のためレンタルも行っています。実際に訪れた人からは、同じ音響性能を再現してほしいという声も多数いただいています。

近年では、**すべての人にとってより良い音環境を提供する「音のユニバーサルデザイン」**の観点から、ホテルなどからも声がけを頂いています。生活環境において求められる性能基準は今後も音に限らず、高まっていくものと思われます。当社では今後も、時代の変化にも対応しつつ、さまざまなシーンにおける音環境の課題解決、最適な提案を目指していきます。



環境スペース株式会社 代表取締役 嶺島 伸治 (みねしま しんじ)

1961 年 5 月 29 日、東京生まれ。日本大学理工学部卒業後、設計施工会社に勤務、大手店舗の内装などに従事。2003 年に環境スペース株式会社を創業し代表取締役就任、現在に至る。
座右の銘は「笑顔が一番！」。

【環境スペース株式会社 企業概要】

社 名	環境スペース株式会社
代 表	嶺島 伸治
所 在 地	東京都渋谷区恵比寿 3-28-12 ATYビル 3F
ホームページ	https://www.soundzone.jp/ (商品サイト) https://www.kankyospace.com/ (コーポレートサイト)
T E L	03-5795-1215
設 立	2003 年 9 月
事 業 内 容	音響・防音工事、音・室内空気環境の測定、環境騒音対策工事、一般内装工事

プレスリリースに関する報道関係者お問い合わせ先

広報 担当 : 室 奈織子 (080-9817-5904)

TEL : 03-5795-1215 Fax : 03-5795-1216 n.muro@kankyospace.com